**基本理念とその意義**

**～社会福祉法人の役割を考える～**

社会福祉法人天竜厚生会総務部　村瀬　勇

**要旨**

事業種別を問わず、経営理念や基本理念という名称で組織のあるべき姿を表する理念が存在する。この理念は事業運営する上での最重要な配慮であり、経営者、幹部職員のみならず、働く職員ひとり一人が自覚して日々実践することが理想である。特に社会福祉法人においては公益性の基、それにちなんだ理念が掲げられているが、こうした複雑多岐化、人材不足といった難しい時代こそ、職員一丸となって理念を自覚し、社会福祉法人の社会的責務を果たすことが肝要である。

**1 目的**

職員ひとり一人が理念を正しく理解し、実践することで仕事への誇り、喜びが生まれ、同時に社会福祉法人の役割を果たすことになる。そのためにはどうした手段が必要なのか、当法人での取り組みを紹介し、社会福祉法人に課せられている役割を再度、認識すると共に他法人等の方々にも参考にしていただく。

**２ 方法**

社会福祉法人の定義、社会福法人で掲げられている理念を幾つか紹介する。これらは全て社会福法人の公益性を表すものであり、これらを組織全体に浸透させていく必要性があることを説く。次いで、理念の理解、求められる職員像等を記載した当法人の冊子を紹介し、この活用方法、実際に講義を受けた職員の声を紹介する。冊子紹介に際して、参考とした文献や社会福祉士会倫理綱領等との整合も図りつつ、なぜこのような内容となったのか、根拠も明確にしていく。

**３ 結果**

理念は法人、職員ひとり一人にとって極めて重要なものであり、拠所となるものである。理念を充実に実践していくことが社会福祉法人の役割を果たすことにも繋がる。また人はマズローの欲求段階にあるとおり、働くことの動機として給与の多寡が第一義ではなく、自己実現や達成感が大きい。このことを十分に理解した上で、理念の大切さ、理念を踏まえた日々の実践を周知し、次世代に繋げていくことが重要である。

**４ 考察**

様々な考え方、価値観をもった職員がいる中、また多様な働き方が叫ばれる中、一様に法人理念と働くことの意義を理解するのは困難である。このため、どの階層にどのような手法で説明していくか重要であり、根気をもって継続していくことも不可欠である。よって周知による職員からの意見を基に見直すべき事項は課題として要することとなる。

**５ まとめ**

目的にも記したが、社会福祉法人に課せられている役割、現在、置かれている状況を再認識する。イコールフッティング論に惑わされることなく、社会福祉法人の有益性、非課税となる意義について世間に堂々とＰＲできるようにしなくてはならない。

**参考文献**

・ソーシャルワーカーの倫理綱領

・社会福祉士の倫理綱領

・介護福祉士の倫理綱領

・パナソニックコーポレートガバナンス

・日産ウェイズ

・2017年8月日経新聞記事（会社継いだ覚悟と軌跡）

本発表に報告すべき利益相反はない